



よこはま

HP : <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



CONTENTS

1. 新幹部の紹介
2. 相模総合補給廠の一部返還が正式合意
3. 座間市とキャンプ座間に係る協議会設置で合意
4. 在日米軍各司令部の司令官交代式
5. 労務管理の業務
6. 寄稿(綾瀬市、横須賀市)
7. 米軍関係者と地域住民との交流行事
8. 第5回防衛問題セミナー開催

編集企画：南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会
発行：南関東防衛局 総務部報道室 Tel 045-211-7129
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

新幹部の紹介

次 長 田 渕 眞 二 （昭和27年生）

平. 19. 9. 1 本省地方協力局防音対策課長

平. 20. 8. 1 現職 南関東防衛局次長



8月1日付けで南関東防衛局次長になりました田渕です。

よろしくお願いいたします。

ここ数年、地球温暖化、エコロジーといった言葉を耳にしない日はないといっているほど、地球環境というキーワードが私たちのライフスタイルを考えていく上での指針の一つとなっています。ひるがえって防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策につきましても、エコロジーの視点で考えていくことは、今後あらゆる側面でさらに必要になってくるのではと考えており、それについていろいろな方のご意見も伺いながら模索出来たらと思っています。

総務部長 野口 裕樹 （昭和28年生）

平. 19. 9. 1 本省地方協力局施設管理課用地調整室長

平. 20. 8. 1 現職 南関東防衛局総務部長



この度の人事異動で総務部長を拝命した野口です。

私は本省勤務が長く、局勤務は近畿中部防衛局以来5年振りとなります。

私は仕事を行う上で信じていることがあります。それは、苦労は力となり、悩みは知恵となるということです。1日も早く局の仕事に慣れ、全力で問題解決に取り組んで行きたいと思えます。

また、当局のある馬車道一帯は、港町横浜の最も横浜らしい、文明開化の息づきが感じられる所で、散策を楽しみにしています。これからの永い付き合い、よろしくお願いいたします。

企画部長 加野 幸司 （昭和41年生）

平. 19. 9. 1 本省大臣官房秘書課付

平. 20. 8. 1 現職 南関東防衛局企画部長



企画部長に着任しました加野と申します。

これまでは内局での勤務が中心で地方局での仕事はおよそ初めてのことで、新鮮な気持ちと些かの緊張感の下、ここ横浜での任務をスタートすることとなりました。もとより経験に乏しい若輩ですが、関係自治体や関係住民の皆さま、そして当局のすばらしい仲間とのご縁を大切にしつつ、当面する課題に一つずつ取り組んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

調達部長 平井 啓友 （昭和33年生）

平. 19. 9. 1 本省地方協力局提供施設課整備調整官

平. 20. 8. 1 現職 南関東防衛局調達部長



横浜での勤務は、約20年前に旧横浜防衛施設局で周辺対策業務を担当して以来となります。「みなとみらい」をはじめ、あちこち綺麗になった「今の風景」と「昔の街並み」を重ね合わせては、感慨深く思っております。

調達部の業務は、「建設工事の実施等」、「装備品の検査等」と大きく2つに分かれますが、いずれにしても、ユーザーをはじめ関係する方々に対し、風通しの良い対応を心がけていきたいと思っておりますので、ご助言等の程よろしくお願いいたします。

相模総合補給廠の一部返還が正式合意

平成20年6月6日(金)、日米合同委員会で相模総合補給廠の一部土地の返還(約17ヘクタール)について正式合意され、同日、齊藤南関東防衛局長から加山相模原市長に対して伝達されました。

相模総合補給廠は面積約214ヘクタールを有し、神奈川県相模原市に所在しています。本施設は、昭和13年に旧日本陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所として開設され、昭和20年9月に連合軍の進駐により接收され、現在は、在日米陸軍管理下で物資の保管、修理などの後方補給業務を担っています。

当該施設の一部土地の返還については、2006年5月1日の「再編実施のための日米ロードマップ」において、「相模総合補給廠の一部は、地元再開発のため(約15ヘクタール)、また、道路及び地下を通る線路のため(約2ヘクタール)に返還される。影響を受ける住宅は相模原住宅地区に移設される。」となっており、今回の日米間の正式合意となったものです。

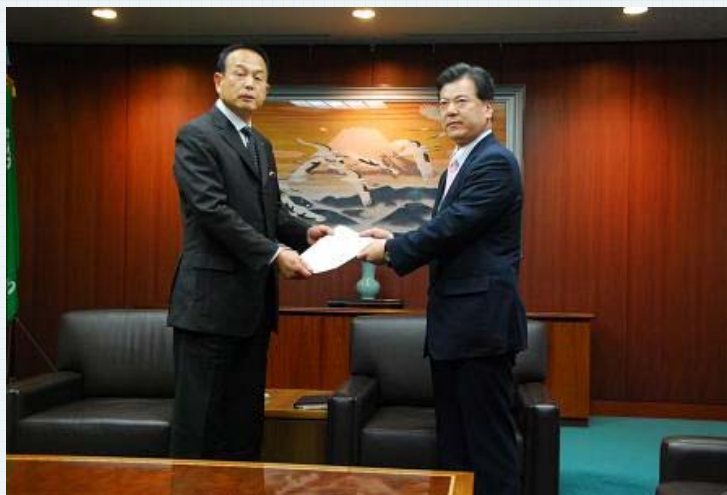
相模原市における大規模な在日米軍施設・区域の返還は、昭和56年の米陸軍医療センター(約19ヘクタール)以来であり、返還実現までに至る間、当省は米側と返還区域の策定、同区域内に所在する住宅等の移設など返還に必要な条件について鋭意協議を進めてきました。

一方、相模原市は、日米ロードマップの公表以降、今回の返還予定地を中心とした「相模原駅周辺地区まちづくり構想」(さがみはら新都心構想)を策定するため、「相模原駅周辺地区まちづくり検討委員会」を立ち上げ、今後、この構想をもとに国との協議を進めるとともに、年次計画・整備手法を含めたより具体的なまちづくりの計画をまとめていくこととしています。

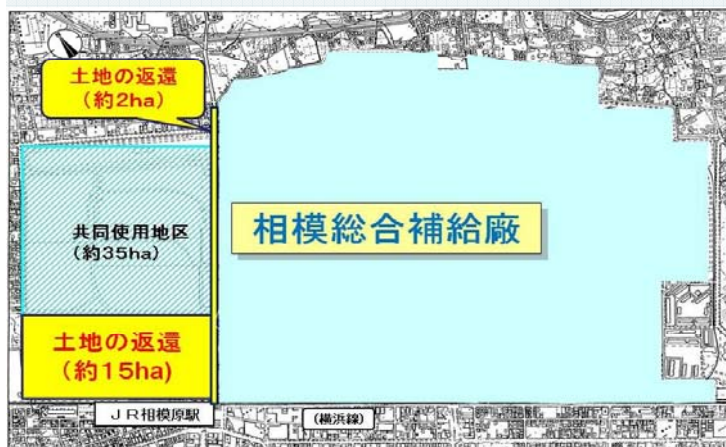
今回合意された土地約17ヘクタールの返還については、返還区域内にある施設の移設等が完了した後に返還されることから、当局としては、これら住宅、倉庫等の移設先地の調査、設計及

び工事に必要な所要の手続きを進めていくこととしています。

さらに、米側等関係機関、相模原市との細部調整も必要なことから鋭意協議を進め、相模原駅周辺地区の発展と相模総合補給廠の安定的使用の両立を図りたいと考えております。



加山相模原市長(左)と齊藤南関東防衛局長(右)



座間市とキャンプ座間に係る協議会設置で合意 (キャンプ座間米軍再編事業に新たな進展)

平成20年8月8日(金)、防衛省において防衛省と座間市との間における「確認書」の調印式が行われ、防衛省を代表して井上地方協力局長、齊藤南関東防衛局長、また、地元側を代表して星野座間市長がそれぞれ調印し、キャンプ座間に係る諸問題を話し合うための新たな協議機関の設置について合意されました。

キャンプ座間は、座間市と相模原市にまたがる丘陵地帯に位置し、昭和12年旧日本陸軍士官学校が東京から移転した際に開設され、終戦まで陸軍将校養成の拠点でしたが、戦後、連合軍の進駐により米陸軍に接收され、以降、在日米陸軍の中樞司令部として整備されてきました。昭和46年6月25日には、日米合同委員会で陸上自衛隊施設部隊の一部共同使用が合意され、さらに、平成19年12月19日には、米陸軍司令部能力の改善の一環として、米陸軍第1軍団前方司令部が新編されたところです。

平成16年11月、座間市は行政、議会、自治会連合会の三位一体で「キャンプ座間米陸軍第一軍団司令部移転等に伴う基地強化に反対する座間市連絡協議会」通称“市連協”を組織し、キャンプ座間の再編問題に反対してきました。

当局は、一日も早く座間市の理解と協力を得るべく本省及び関係機関と調整を重ね、まず、在日米陸軍司令部の再編等とキャンプ座間の将来の在り方について、政府の基本的認識として本年5月12日に ①今般の再編に伴う地元の負担に関する認識 ②安全保障の基本方針 ③地元負担の軽減に向けての具体的な努力についての認識 ④米軍再編の日米協議における座間市への対応姿勢についてと今後への認識を座間市に対して提示いたしました。

その後、新たな安全保障環境において引き続き我が国の安全を確保し、アジア太平洋地域の平和と安定を維持していくため日米安全保障体制の維持・発展が重要との考えのもと、また、同時に在日米軍施設・区域の必要性に関し、我が国として主体的に不断に検討・精査を行い、基地の整理・縮小や運用の改善に向けて一層の努力をしていくことも重要であるとの認識のもとに具体的方策を示すため、平成20年7月28日、当局の局長が座間市を訪問し、市連協会長である同市長に新たな協議機関の設置を提案する「確認書」を提示しました。同日夜開催された市連協総会において、政府からの提案についての協議が行われ、①確認書の受諾 ②市連協の解散 ③横断幕・懸垂幕の撤去について可決されました。さらに7月30日には本省で石破防衛大臣と星野市長が面談され、これまでの経過報告等がなされ、冒頭の調印式が実施される運びとなったものです。



座間市長、本省地方協力局長、南関東防衛局長



三者による「確認書」の調印式

在日米軍各司令部の司令官交代式

【在日米陸軍司令官の交代式】

在日米陸軍司令官の交代式があいにくの雨模様の中、6月30日（月）、キャンプ座間内のヤノ体育館において行われました。当日は米太平洋陸軍司令官ベンジャミン・R・ミクソン中将、陸上自衛隊折木陸幕長ほか約200人の来賓が参加し、当局からは齋藤南関東防衛局長が出席しました。

前司令官のエルバート・N・パーキンス少将は、約5年間の任期を終え、退役され、後任の新司令官には、フランシス・J・ワーシンスキー准将が着任されました。

交代式は、国旗・部隊旗入場後、日米両国国歌演奏等に引き続き折木陸幕長及びパーキンス前司令官、ワーシンスキー新司令官がそれぞれ縁起物の達磨への目入れ式を行いました。

パーキンス前司令官は離任挨拶で「この5年間で誇りに思う。在任中に在日米陸軍と陸上自衛隊との関係は大きな変化を遂げた。今後、自衛隊との結びつきは強いものとなる。」と述べられました。

また、新司令官は着任挨拶で「友好国に司令官として着任でき光栄である。日米両国の兵士と指導者のために努力することを誓う。」と述べられました。

前司令官のパーキンス少将には、平成15年6月着任以来5年と1か月の長きにわたり米軍再編問題に関わる在日米陸軍司令部の改編、陸上自衛隊中央即応集団司令部の設置及び相模総合補給廠における土地の一部返還等々、諸事案に対し多大なる尽力をいただきました。

新司令官のワーシンスキー准将は、1979年米陸軍士官学校歩兵将校初級課程修了後、第25歩兵師団第19歩兵連隊第1大隊に配置され、その後、各部隊を歴任し2001年9月米同時多発テロ発生後、アフガニスタンにおける「不朽の自由作戦」で第3旅団長として指揮を執り、今回米太平洋陸軍副司令官から着任されました。



ワーシンスキー新司令官着任挨拶



ワーシンスキー新司令官(左から2人目)



達磨への目入れ式
ワーシンスキー新司令官と折木陸幕長

【米第7艦隊司令官の交代式】



前司令官(左)新司令官(右)

米第7艦隊司令官の交代式が7月12日(土)、米海軍横須賀基地に停泊中の指揮艦「ブルーリッジ」艦上で行われ、ウィリアム・D・クラウド中将に代わりジョン・M・バード中将が新司令官に着任されました。式典には日米の関係者数百人が出席し、当局からは齊藤南関東防衛局長が出席しました。バード新司令官は、海軍兵学校を卒業後、マサチューセッツ工科大学で外政、国際関係論、国家安全保障セミナーを修了。原子力攻撃型潜水艦などの勤務をはじめ、米統合軍の作戦・後方支援・技術部長及び横須賀にある第7潜水艦群司令官などを歴任、前職は太平洋艦隊副司令官兼参謀長でした。交代式では、「日本に戻ってこられてうれしい。アジアの平和と安定のために尽くしたい。」と述べられました。

一方、米国で海軍作戦本部作戦次長(作戦・計画・戦略担当)に転任するクラウド中将は、第7艦隊の指揮を執った約2年を振り返り、即応体制や海上自衛隊とのパートナーシップの向上などの功績を挙げながら「日本の市民からの多大な支援に感謝している。」と述べられました。



ジョン・M・バード新司令官

【米海兵隊キャンプ富士司令官の交代式】



Colonel Robret G. Golden III
ロバート G. ゴールデン3世 大佐

米海兵隊キャンプ富士司令官の交代式が6月27日(金)、同施設内の体育館で執り行われました。式典には、御殿場市副市長や地元関係者のほか、神田南関東防衛局次長、陸上自衛隊関係者ら多数が出席しました。

前任のケネス・X・リスナー大佐は、在沖海兵隊第三海兵師団参謀長にご栄転となり、後任の司令官には韓国から、ロバート・G・ゴールドデン3世大佐が着任されました。

ゴールドデン3世大佐は、「20年前に訓練でキャンプ富士を訪れたことがあるが、当時とは比べものにならないほど施設が近代化され驚いた。このキャンプ富士を世界一の海兵隊部隊とするように心を引き締めて臨みたい。」と訓示を述べられました。

式典は、部隊旗の引継、国旗入場、表彰状授与等につき、海兵隊軍楽隊による海兵隊賛歌の力強い演奏で幕を閉じました。



新司令官(左)前司令官(右)

労務管理の業務

在日米軍従業員について

我が国には、日米安全保障条約に基づき、在日米軍が駐留しています。この在日米軍の任務遂行のために必要な労働力は、日本政府が雇用主となって在日米軍に提供しています。在日米軍基地で勤務している方々は、「在日米軍従業員」と呼ばれて、在日米軍における事務や技術及び販売等多様な支援業務を行っています。

従業員に対する労務管理は、日米共同で実施しており、在日米軍においては、実際の使用者として、従業員の直接の指揮、監督、指導、統制及び訓練を、一方、日本側においては、法律上の雇用主として、在日米軍の発議する人事措置（採用、配置転換、解雇等）の審査と決定、給与の計算・支払、労働組合との交渉等の事務をそれぞれ担当しています。



【当局管内の従業員数（平成20年7月末現在）】

当局管内（神奈川県・静岡県）には、全国の従業員25,448名の約36%に当たる9,157名の従業員が在籍しており、防衛事務所別の従業員数は、横須賀で7施設5,590名、座間で6施設3,437名、富士で1施設130名である。また、横須賀海軍施設は、4,821名が在籍し、全国で従業員数が最も多い施設となっている。

寄稿（神奈川県綾瀬市）

テレビジョン共同受信施設について

綾瀬市は神奈川県のおぼ中央に位置し、面積2,280キロ平方メートル、人口約8万2千人の比較的小規模の市です。

厚木基地は本市の東側に位置し、基地面積の約3/4（395ヘクタール）が本市分となっています。

厚木基地の運用から派生する諸問題は、航空機騒音問題をはじめ多岐に渡っていますが、その障害のひとつにテレビ画像障害があります。これは、飛行する航空機にテレビ電波が反射することにより、画像が揺れる受信障害が発生するものです。

本市では、この障害対策として、周辺整備法第3条に規定する障害防止事業としての採択を受け、昭和55年度からテレビジョン共同受信施設を順次設置し、平成6年度には市内全域が完了し、同年度からは更新工事を実施し、平成17年度をもって更新工事も終了したところです。

施設設置後の維持管理は、地域住民で組織された管理組合と市が協定を結び管理組合が行っています。現在、21の管理組合があり、市内全体の約6割の世帯（約1万8千世帯）が加入しています。

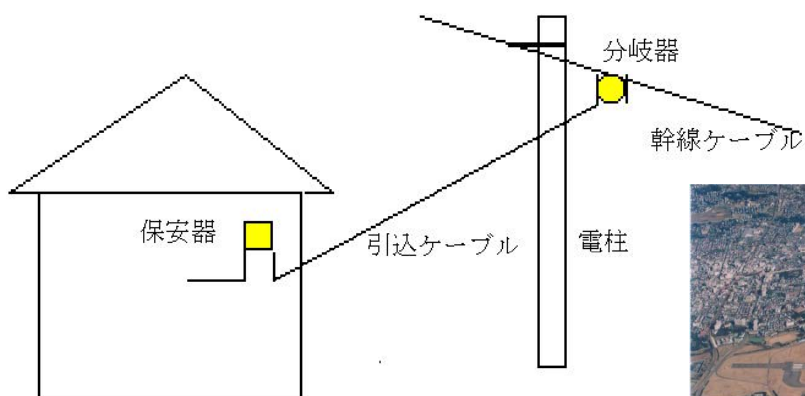
テレビジョン共同受信施設の利点としては、地形を問わず良好なテレビ画像が得られることのみならず、アンテナがないことによる町の美観の向上に役立っています。

一方、課題としては、デジタル化への移行が挙げられます。

当初、デジタル放送は障害に強く航空機による障害も受けにくいとされておりましたが、本市が平成17年度に行った調査では障害が認められました。この結果を踏まえ国と協議を重ね、最終的に、デジタル化改修へのご理解をいただくことができました。

今後、1日も早く施設の改修を行い、良好な電波を配信してまいりたいと考えておりますので引き続き本事業に対する御支援と御協力をお願いいたします。

綾瀬市企画部基地対策課



テレビジョン共同受信システム



厚木飛行場

米軍関係者と地域住民との交流行事

【米海軍横須賀基地】

養護園の子供達をクリスマス・ハロウィーン行事へ招待、街角清掃、海岸清掃、障害者との交流、ホームレスへの衣類・食品・生活用品の寄付、老人ホーム訪問・車椅子の掃除・庭の剪定作業、日米文化交流、餅つき大会、外人墓地の掃除、野球やボーリングなどのスポーツ交流、ホームレス地区の街角緑化支援、養護園のプール・遊具のペンキ塗り、地域の小学生や子供会を招いてクラフト教室、学生を対象とした勉強会、第7艦隊バンドの街角コンサート、基地見学ツアーなど・・・米海軍横須賀基地では、年間を通してこのようなボランティア活動・地域交流行事を平均200件以上、様々な部隊で行っている。

「僕達が参加できるボランティア活動はある？」長い航海や演習から帰ってきた艦船や陸上部隊の兵隊達から電話がかかってくる。その時に参加できそうな活動や行事が予定されていればその情報を提供したり、なければ彼らの要望に沿ったボランティア活動を提案したり、コーディネートする。

一番優先して配慮することは、日米双方の需要と供給が合致することだ。双方が満足してなおかつ楽しめることに意味がある。

子供達へのクリスマスプレゼントや活動のための資金が必要な時は、彼らはポケットマネーを出し合ったり、ハンバーガーやホットドックを作って基地内で販売したり、洗車サービスなどをして資金を集めている。

私が感心することは、兵隊やその関係者がこれらの活動や行事を「自然に楽しんでいる」ことだ。そして彼らの明るさは、その場を盛り上げてくれる。参加する動機を尋ねると「自分の兄弟も障害者だから・・・」「自分は貧しい家庭で育ったから。」「何か役に立ちたいから。」「日本の人と関わりたいから。」と理由は様々だ。

このような活動は、遠く故郷や家族から離れて異国で暮らす彼らの気持ちを癒す効果もあるのではないかと思う。「また参加したい。」「楽しかったよ。ありがとう。」「また同じような活動があったら教えて。」彼らの思いや地道な活動が今後の日米友好関係を支えるだけでなく、国を超えて一人一人の「人としての豊かさ」に繋がってゆくことを願っている。

米海軍横須賀基地司令部 広報・報道担当 杉田恭子



街角清掃



車椅子の掃除



第7艦隊バンドの街角コンサート

【キャンプ座間】

在日米陸軍の基地管理本部では、渉外部が窓口となつて、基地管理本部および協力団体主催のさまざまな交流行事（歴史探訪、合同バーベキュー、地域自治勉強会、ほか）に駐留する米陸軍人・軍属とその家族の方たちをお招きし、日本滞在中に草の根レベルの「一般の」日本人との交流・相互理解の機会を設けております。

毎回多数のアメリカ人に参加していただき、幸い、多くの方々は非常に好印象を持っていると聞いております。以下、参加したアメリカ人の声を挙げます。「主催者スタッフの皆さんは魅力的で、人間的に非常に引きつけられた。今後皆さんの接遇態度等、自分の職務また職場の人的運営に生かしていきたいと考えている」、「交流行事は私と妻にとって大変有意義な機会であり、アメリカ人たちは日本のさまざまな側面を感じ、学ぶことが出来ています。」「交流会は安心して参加でき、素晴らしい時間を共有する機会です。このような交流を土台に、米国と日本との関係がこれからも長く続き、また表面的な関係を越えたものになっていくことを確信しております。」

文責：在日米陸軍基地管理本部渉外部渉外専門官 大野美香子



県央日米協会主催ガーデン・パーティー

【厚木基地】

日本に初めて来たとき、私は厚木基地で少年サッカー、バスケットボール、野球、そしてアメフトのコーチを務めた。子供の運動能力を高めることが出来てとても嬉しかったが、アメリカと日本の地元地域との絆を強める方法を見つけたかった。日本に来て数ヶ月経ち、綾瀬市寺尾小学校で英語を教える機会がやってきた。決して忘れることの出来ない素晴らしい思い出となる体験だった。

教室の中に足を踏み入れた初日から、私は教師と生徒たちから熱烈な歓迎を受けた。そのことから英語を学ぶことを皆が楽しく興味深いと思えるように頑張ろうと思った。生徒たちは毎週新しい歌や英語を話す人の日常生活にとって必要となる単語や言い回しを学んだ。授業期間のヤマ場は、生徒たちが厚木基地へ行き、今までアメリカ人のボランティアと学んだ英語を全て英語で実践したときだった。生徒たちが一生懸命に学ぼうとしたことを成し遂げたのを見たとき、目に涙が浮かび上がりそうだった。生徒たちは他の人に自分たちが言っていることを理解されたのがわかり笑顔をみせたとき、私は後ろの席に座りながら懸命に英語を教えた甲斐があったと思った。

寺尾の英語教師助手のボランティアが大変素晴らしい出来事だったので、私は綾瀬市や海老名市で他のボランティアの機会をこつこつと探している。

学校行事に参加することを認めるのに努力してくれた全ての人々に感謝したい。もし「もう一度やってみたいか」と聞かれたら、確実に「もちろんですとも」と答えるだろう。

When I first came to Japan I became a coach of youth soccer, basketball, baseball and American football at Atsugi base. I felt great being able to improve the kid's playing abilities but I wanted find a way to strengthen the bond with the US and the Japanese local community. The opportunity for teaching English at Terao Shogakko came to me within a few months of being in Japan. It has been an amazing and very memorable experience that I will NEVER forget.

From the first day I walked in the doors of the school, I was welcomed with open arms by the teachers and students. It made me want to do my best to make learning English fun and interesting for everyone. Every week they learn new songs, words or phrases that will prove to be essential for the every day life of an English-speaking person. The highlight of the school year is when the students go to Atsugi Base to practice all they have learned with American volunteers, all in English. Seeing them accomplish what they've worked so hard to learn almost brought a tear to my eye. As I sat back and watched the smile on their faces when they realize that the people understood what they were saying, made all the hard work worth the effort.

Since being a volunteer assistant English teacher for Terao has been such remarkable occurrence, I've been looking diligently for other prospective volunteering opportunities at Ayase and Ebina City.

I thank all the people involved in allowing me to participate in the school program. If I am ever asked "Would you do it again?" my answer would absolutely be "YES, YES, YES."

By AD2 Jerry Buttler



厚木航空機中間整備部所属、2等航空発動機整備員ジェリー・バトラーが、海軍販売部食堂を訪れた地元の寺尾小学校の生徒と会話

第5回 防衛問題セミナー開催

テーマ 自衛隊の災害派遣と 国民保護について

開催日：平成20年7月25日(金)

場 所：横浜市吉野町市民プラザ

講 師：陸上自衛隊第31普通科連隊長 菊池政巳 1等陸佐



菊池政巳 1等陸佐



当省は、防衛省・自衛隊の役割につて、国民及び地方自治体等の理解及び協力を得ることを目的に様々な防衛問題や防衛省・自衛隊の施策、活動等をテーマとした「防衛問題セミナー」を開催しております。

当局では、上記のとおり第5回防衛問題セミナーを開催しました。

テーマは「自衛隊の災害派遣と国民保護について」と題して、陸上自衛隊第31普通科連隊長の菊池政巳1等陸佐を講師に迎えて行われました。当連隊は、神奈川県横須賀市「武山駐屯地」にあり、神奈川県を隊区(防衛、災害等を担任する地域単位)とする同県唯一の第一線部隊です。

講演では、最近の地震災害派遣の活動状況等についての説明がありました。

神奈川地域で地震災害が起きた場合の自衛隊の災害活動については、同じ都市部での発生を考慮し、その類似性から阪神・淡路大地震の自衛隊の活動状況等を例として、隊区の任務など自衛隊の体制について具体的な説明がありました。

国民保護については、自然災害に対する災害派遣と変わるものではありませんが、武力攻撃事態等の環境下における自衛隊の国民保護等派遣の内容について具体的に説明がありました。

平成20年岩手・宮城内陸地震では、大きな被害があったばかりでもあり、熱心に講師の言葉に耳を傾けていました。

参加した皆さんからのアンケートでも、「今日のセミナーに参加して、自衛隊の災害派遣の仕組みや災害活動がよく理解できて大変良かった。」との声が多数聞かれました。